

# タイトロックⅡ TL-410

## 接着系あと施工アンカーカートリッジ式注入タイプ



### ■特長

- ・エポキシアクリレート樹脂の採用により低温時でも硬化します。
- ・スチレン等の揮発性物質を含まないため、嫌な臭いが少なくなっています。
- ・横向き／上向き施工にも対応できる高粘度タイプの樹脂です。
- ・硬化剤に着色しているため、混合具合が確認できます。
- ・あらゆるサイズのボルト、異形棒鋼に対応できます。
- ・水道用資機材の浸出試験に合格しています。
- ・「優良住宅部品認定基準 墜落防止手すり」に使用する改修用アンカー」に関し、ベターリビングによるデータを取得しています。

### ■可使時間と硬化時間

温度(℃)	-5	0	5	10	20	30	35
可使時間(分)	90	45	25	15	6	3	2
硬化時間	24時間	12時間	4時間	3時間	2時間	1時間	45分

※可使時間：注入開始(2液が混合された時)から硬化反応が始まるまでの時間  
 ※硬化時間：注入開始から荷重をかけられるまでの時間  
 ※可使時間内にボルトまたは、異形棒鋼の埋め込みを終了してください。  
 ※可使時間から硬化時間の間はボルトまたは異形棒鋼に触れないでください。

使用ボルト 異形棒鋼	穿孔条件 径×長さ(mm)	必要樹脂量 (mℓ)	カートリッジ本 数(100ℓ筒)	最大引張荷重(kN)		許容引張荷重(kN)	
				ハンマードリル	コアドリル	長期	短期
D10	φ13×90L	7	55	38.5	36.8	12.4	18.6
M10 W3/8	φ12×90L	6	65			12.2	18.4
D13	φ16×100L	9	43	72.3	67.5	15.5	23.3
M12 W1/2	φ14×100L	9	43			15.2	22.8
D16	φ20×130L	18	21	106.0	101.0	26.1	39.1
M16 W5/8	φ18×130L	16	24			25.9	38.9
D19	φ24×160L	32	12	146.0	136.0	39.4	59.1
M20 W3/4	φ23×160L	33	11			39.2	58.8
D22	φ28×180L	50	7	205.0	165.0	50.1	75.1
M22 W7/8	φ26×180L	49	7			49.6	74.4
D25	φ32×200L	72	5	252.0	217.0	62.1	93.1
M24 W1	φ28×200L	64	6			61.0	91.5

注意) ●許容引張荷重は上記穿孔条件における $F_c=21N/mm^2$ の場合のコンクリート破壊により決まる算定値です。 ●M24およびD25より大きいサイズについてはメーカーまでお問い合わせください。 ●最大引張荷重は異形棒鋼SD345(D10のみSD295A)での公称機関試験値で、規格値ではありません。(JCAAあと施工アンカー試験方法による。) ●必要樹脂量はロス率20%での計算値です。

### ■用途

- あと施工アンカー全般
- 定着アンカー
- 差筋アンカー(L型、J型、U型)
- 機械基礎アンカー
- 手摺・フェンス支持
- 機械据え付け用アンカー

### ■保管および取扱上の注意事項

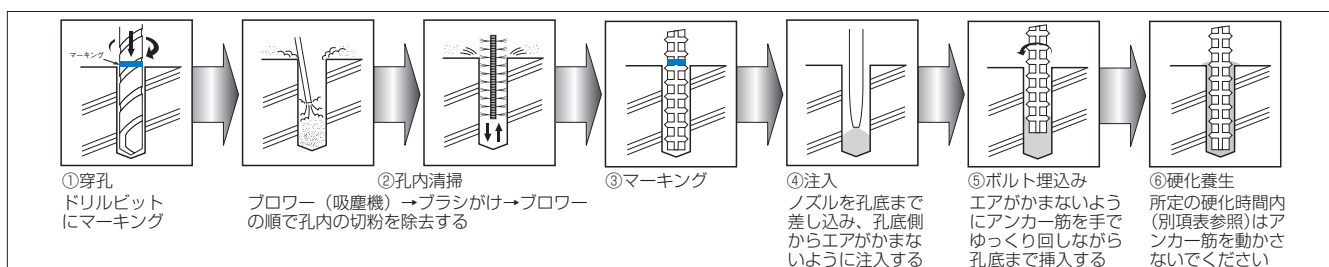
- 直射日光を避け、風通しのよい、温度のあまり上がらない場所に保管してください。それ以外に保管すると、使用期限内でも使用できなくなることがあります。
- 40℃以上には絶対にしないでください。
- 使用中を含め、火気や高温物に近づけないでください。
- 取り扱い時には、必ず保護具(マスク、保護メガネ、手袋など)を着用してください。
- 樹脂が皮膚などに付着すると、炎症を起こすことがあります。速やかに拭き取り、石鹸水で洗い流してください。
- 目に入った場合は、直ちに大量の水道水で15分以上洗い落とし、医師の診断を受けてください。
- 機具類に付着した樹脂は、硬化する前にシンナー類で拭き取ってください。
- カートリッジの保管は、ノズル取付部を上にして、立てて保管してください。

### ■使用方法



注意) ●ノズル内のエレメント(黒色の部分)が装着されていることを確認してください。万一、エレメントが外れている場合は、主剤と硬化剤が混ざらないため、使用しないでください。 ●未使用のカートリッジを使用時、またはノズルを交換した際には、最初の3～4ショット程度は捨ててください。混合不良のため硬化しない場合があります。吐出物が灰色になったことを確認してから、使用してください。 ●内容物が残った場合は、ノズルを取り外し、口部の液をふき取り、2液が混ざらないようにキャップをして保存してください。 ●カートリッジの温度が低くなると吐出抵抗が大きくなりますので、暖めて使用してください。(ただし40℃以上には絶対にしないでください。)無理に吐出すると、カートリッジ及びガンの破損の原因となります。

### ■施工方法



注意) ●ハンマードリルで施工した場合、穿孔後、ブロー→ブラシがけ→ブローの順に確実に孔内の切粉を除去してください。 ●コアドリルで穿孔した場合、穿孔後、ブラシと流水で切粉(ノコ)をきれいに取り除いてください。孔壁にノコ等が付着していると、強度が著しく低下します。